

EGFR 遺伝子変異陽性早期非小細胞肺癌に対する術後補助療法の検討

2011年4月1日から2019年4月30日までに肺癌に対して手術を受けられ、腫瘍径 2-5cm、リンパ節転移なし、EGFR 遺伝子変異（ある種のタンパク質の変異）を調べた患者さま

研究協力のお願い

日本医科大学多摩永山病院呼吸器外科では「EGFR 遺伝子変異陽性早期非小細胞肺癌に対する術後補助療法の検討」という研究を行います。この研究は、2011年4月1日より2019年4月30日までに当科にて、肺癌に対して手術を受けられ、腫瘍径 2-5cm、リンパ節転移なし、EGFR 遺伝子変異を認めた患者さまの術後経過を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

(1) 研究の概要について

研究課題名：EGFR 遺伝子変異陽性早期非小細胞肺癌に対する術後補助療法の検討
研究予定期間：倫理委員会承認日～2023年5月31日
調査対象期間：2011年4月1日～2019年4月30日
研究責任者：日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科 吉野直之

(2) 研究の意義、目的について

肺癌は、男女共にがんによる死因の第1位であり、すべてのがんによる死亡の約5分の1を占める主要な悪性腫瘍であります。切除可能な肺癌患者さまの一部では、手術（腫瘍の完全切除）および術後補助療法としての化学療法を行います。すべての患者様の再発を完全に抑えることはできません。そこで、今回は肺癌術後、適切な術後補助化学療法の適応を明らかにすることを目的とします。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2011年4月1日より2019年4月30日までに日本医科大学多摩永山病院呼吸器外科にて、手術を受けられた患者さまの病理診断、遺伝子検査などの情報をもとに、UFTの使用・未使用の症例を比較しながら、適切な術後補助化学療法についての検討を行います。
この研究は、患者さまの以下の試料・情報を用いて行われます。
試料：なし
情報：年齢、性別、遺伝子検査、血液検査、術後経過など

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 問い合わせ等の連絡先

担当者：呼吸器外科 園川卓海
日本医科大学多摩永山病院 倫理委員会事務局
〒206-8512 東京都多摩市永山1丁目7-1
電話番号：042-371-2111（代表） 内線：2302
メールアドレス：nagayama-chicken_center@nms.ac.jp